

## 8. 4 から 7 までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項

### [1] 公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性

#### 現状分析

中心市街地内にある福島駅は、東北新幹線及び山形新幹線、JR東北本線及び奥羽本線、阿武隈急行、福島交通飯坂線の乗降あるいは乗り継ぎとなる結節駅であるが、乗車人員の推移は平成12年以降JRの在来線及び他2線（私鉄）とも毎年減少傾向にある。

福島駅を起点・終点とする路線バスが運行されているが、利用者は減少傾向にある。

近年におけるモータリゼーションの進展によるバス利用離れにより、不採算路線は廃止の方向にあるため、郊外の住民やお年寄り等の移動手段の確保が喫緊の課題になっている。

市民アンケート調査によると、中心市街地への来街者の交通手段は、自家用車（33.8%）と電車・バス（33.2%）がほぼ同率で、自家用車は30歳代から50歳代が利用し、電車・バスは10歳代から30歳代の若年層と60歳代から70歳代以上の高齢者層が利用し、公共交通機関利用は1/3にすぎない。

#### 事業の必要性

これらの現状を踏まえた、「1から4までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業」の必要性は、以下の様になる。

#### **【公共交通機関の利便性の増進を図るための事業】**

バス交通の充実と路線バスの利便性、快適性の向上を図るため、これまで取り組んできた事業に対して継続的かつ発展的に取り組むことを目標に、社会実験を実施・検証し、事業を総合的に推進する。

また、公共交通との連携や公共施設等の回遊を向上させるため、レンタサイクルの貸出所の増設及びシステムについて検討する。

また、公共交通との連携や商店街と公共施設等の回遊を向上させるため、福島駅周辺自転車駐車場整備促進事業や駅前通り買い物客自転車駐車場整備事業による利便性の向上と、自転車利用環境総合整備事業などによる安全で快適な環境整備やネットワーク形成が求められる。

#### フォローアップ

年に一回、基本計画で位置付けた取組の進捗状況についての調査を行い、目標指標への到達状況を把握しながら、必要に応じて適切な措置を講ずる。

[2] 具体的事業の内容

(1) 法に定める特別の措置に関連する事業

- ・該当なし

(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>事業名 51 福島駅周辺自転車駐車場整備促進事業</p> <p>内容 整備計画の策定</p> <p>実施時期 平成27年度～ 平成29年度</p>	福島市	<p>福島駅近隣の自転車駐車場については、常に利用率が高く駐輪に支障をきたしている状態である。また、バイクが混在する駐輪場も多いことから課題等を整理し、駐輪需要を詳細に把握することにより、利用者が安全に安心して利用できる恒久的な施設整備の方向性を検証する必要がある。</p> <p>また、平成25年12月の道路交通法の改正などにより、自転車利用環境が変化しており、交通事故全体に占める自転車関連の事故等に割合が高い傾向にあるため、利用実態の把握と課題等を整理し、駐輪場と各拠点施設を結ぶ一体的な自転車ネットワーク計画の策定等を図り、利便性と回遊性、安全性を向上させ、活性化に寄与する事業である。</p>	<p>支援措置 社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(福島市中心市街地地区(第2期))と一体の効果促進事業)</p> <p>実施時期 平成27年度～ 平成29年度</p>	
<p>事業名 53 福島市中心市街地地区事業効果分析</p> <p>内容 歩行者・自転車通行量調査</p> <p>調査地点数 9地点</p> <p>実施時期 令和2年度</p>	福島市	<p>歩行者・自転車通行量の目標を定量化する指標とその数値目標の達成状況等を把握するとともに要因分析を行い、交付金事業の成果を踏まえた今後のまちづくり方策を策定していく。</p>	<p>支援措置 社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(福島市中心市街地地区(第2期))と一体の効果促進事業)</p> <p>実施時期 令和2年度</p>	

- (2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関する事業  
・該当なし

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>事業名 54 自転車利用環境総合整備事業 内容 自転車専用レーンの設置 実施時期 平成19年度～</p>	<p>国 福島県 福島市</p>	<p>福島駅東側中心市街地において、県立・私立高校などが集中したエリアをモデル地区として、福島河川国道事務所・福島警察署・県北建設事務所・福島市が実施主体となり、安全な自転車走行空間の構築を図り、通勤・通学・買物等で自転車を利用する市民の安全性・回遊性の向上に寄与する事業である。</p> <p>また、平成25年12月の道路交通法の改正などにより、自転車利用環境が変化し、交通事故全体に占める自転車関連事故等の割合が高い傾向にあるため、利用実態と課題等を把握・整理し、駐輪場と各拠点施設を結ぶ一体的な自転車ネットワーク計画の策定等を図り、利便性と回遊性、安全性を向上させ、活性化に寄与する事業である。</p>	<p>支援措置 交通安全施設等整備事業 実施時期 平成19年度～</p>	
<p>事業名 52 中心市街地活性化支援バス社会実験 内容 周遊バスの社会実験 実施時期 平成27年度～ 令和3年度</p>	<p>福島市</p>	<p>平成24年度からの第1期計画においては、市内循環線を中心とした中心市街地における医療施設や公共施設へのアクセス向上を含めた路線について再検討を行っている。</p> <p>この検討結果を受けて、第2期計画においては、社会実験により周辺部に位置する人口集中地区からの中心市街地へのアクセス性の向上についての検討を行い、中心市街地への集客数を増加させ</p>	<p>支援措置 地方創生推進交付金 実施時期 平成28年度～ 令和2年度</p>	

		ることにより活性化に寄与する事業である。		
--	--	----------------------	--	--

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
事業名 55 駅前通り買い物客自転車駐車場整備事業 内容 自転車駐車場の再配置 実施時期 平成27年度～平成29年度	福島市	福島駅前通り（県道福島停車場線）のリニューアルに合わせて駅前通り買い物客自転車駐車場を再配置し、買い物客の利便性を確保するとともに、利用時間・利用方法等について周知徹底を図ることで買い物客自転車駐車場の利用環境を向上させる事業である。		
事業名 56 レンタサイクル事業 内容 レンタサイクル貸出所 5箇所 実施時期 平成14年度～	福島市	自転車による中心市街地回遊の利便性向上を図るため、レンタサイクル貸出所を5箇所設けている。平成25年度には貸出所の増設や返却方法の仕組みを検討するため社会実験を実施した。この結果を踏まえ、更に需要に対応するため事業を継続し、回遊性の向上に寄与する事業である。		レンタサイクル貸出所
事業名 57 「福島バスまつり」開催事業 内容 バス利用促進イベントの開催 実施時期 平成20年度～	福島バスまつり実行委員会	バス等の公共交通機関の利用促進や交通安全などの普及啓発、中心市街地の活性化を目的に（社）福島県バス協会を事務局とし県・市・商工会議所・商店街連合会・交通事業者で構成した実行委員会が「福島バスまつり」を開催し多くの来場者で賑わっている。今後も継続して事業を開催することにより、公共交通機関の利用促進や中心市街地の歩行者数の増加・活性化に寄与するものである。		福島バスまつり

<p>事業名 58  中心市街地活性化  交通支援事業  内容  街なか循環バス運  行に対する助成  実施時期  平成16年度～</p>	<p>福島市    福島  交通(株)</p>	<p>市内循環100円バスについて  は、定額100円運賃の実施から10  年以上が経過しており、市民の間  には気軽に利用できる公共交通  機関として定着し、通勤や通学、  買い物等に幅広い年代層が利用  しており、欠かせない日常生活の  移動手段である。</p> <p>また、本市における公共交通網  の中で二次交通として大きな役  割を果たしており、市全体の公共  交通機関の利便性確保のために  必要不可欠な路線であるとともに  、中心市街地の「集客拠点づく  り」と回遊環境の向上」を図るうえ  で重要な路線であるため、運行に  対し支援を行い、定額100円運賃  を継続することで、活性化の向上  に寄与している事業である。</p> <p>また、燃料の一部にBDFを使用  し環境にも配慮している。</p>		
<p>市内循環100円バスももりん</p>				
<p>事業名 76  古関裕而を活かし  たまちづくり事業  内容  メロディーバス車  両架装購入事業  （車両架装（外装・  内装を改造）N=1式  メロディーバス車  両購入</p>	<p>福島市</p>	<p>古関裕而氏をモデルとした連  続テレビ小説の放映を契機に推  進する、氏を活かしたまちづくり  事業の一環として、古関裕而記念  館とバス運行の連携により回遊  性の向上を図るため、メロディー  バス（架装バス）を購入する。</p>		

車両購入N=1式 実施期間 令和元年度～ 令和2年度				
-------------------------------------	--	--	--	--

